

氏 名 小 野 昌 彦  
所 属 ・ 職 名 附属教育実践総合センター・助教授  
研究室電話番号 0742-27-9345  
(ダイヤルイン・FAX 兼用)  
電子メールアドレス ono@nara-edu.ac.jp  
最終学歴及び学位 筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科単位取得中途退学  
教育学修士(筑波大学大学院修士課程教育研究科 1989)  
所 属 学 会 等 日本行動療法学会, 日本行動分析学会, 日本特殊教育学会  
専 門 分 野 不登校への再登校支援(教育臨床・特別支援教育)



#### 研究と教育について

学校に行きたくても行けない, という子どもから再登校の支援の依頼を受けた時に迅速かつ適切に再登校支援できる系統的支援システムを構築してきました。教育委員会, 学校や町ぐるみでの在籍するすべての子どもたちへの教育保障をする取り組みにかかわって, いくつかの町, 学校で不登校ゼロを達成しました。この不登校ゼロのエッセンスを 6 ステップの再登校個別支援計画にまとめました。現時点まで不登校対応の主流の「待つ」という方法によって全国約 12 万人という不登校児童・生徒が生じてしまいました。さらにニート約 82 万人(福井県の人口とほぼ同じ), フリーター約 400 万人, 少子高齢化社会という日本の様々な面での危機的状況を改善するためにも, この 6 ステップを地域や学校の事情に合わせて是非活用していただきたいと思います。

教育方針としては, 子どもをきちんと育てていく力を身につけてもらいたいと思います。不登校問題に関していえば, 「待つ」, 「強制する」といった次元の対応ではなく, 周囲の人たちに, きちんと目の前の子どもを見つめて, その個々の子どもが社会的自立のために身につけなければならないことを見つけ, それを実際に身につけさせられる実践力があれば再登校(本人が希望する場合)は実は比較的容易です。このように教育実践力を高めていく際に現時点では応用行動分析の考え方が最も示唆が多いと考えます。また, 抽象的な言い方で申し訳ありませんが, 良いものから学ぶ力をつけてもらいたいです。良いものとは, 私は, 「時間の淘汰に耐えて残ったもの」だと思っています。例えば, 私が住んでいる京都にある老舗の料理屋さんは, 美味しくものを食べてもらうという目的のために全料理行程が洗練されています。また食べ易いように料理によって箸の先の形を違えてあります。細かいことですが, そんなことに学生諸君とお互いに気づきあい, 驚きあいながら, 「思いやり」といったものを学んでいく, そういう力(ただの食いしん坊?)を身につけてもらいたいと考えます。

#### 主な研究業績

- ・小野昌彦(2006)不登校ゼロの達成(単著)明治図書出版(2006年2月)
- ・小野昌彦(2005)「A町での不登校プロジェクト-発生率ワーストワンから不登校ゼロへの軌跡-」  
「不登校問題解決に向けて」p75-156 教師のための不登校サポートマニュアル-不登校ゼロへの挑戦-(共著)明治図書出版(2005年2月)
- ・小野昌彦(2003)「水泳授業参加援助による小学校不登校の再登校行動の形成と維持-家庭, 学校への行動論的支援を中心として-」行動療法研究 第29巻 第1号 p61-71
- ・小野昌彦・小林重雄(2002)「中学生不登校の再登校行動維持への主張的スキル訓練」特殊教育学研究 第40巻 第4号 p355-362
- ・小野昌彦(2001)「男子小学生不登校への午後登校法適用による援助」カウンセリング研究 第34巻 3号 p63-69

#### 主な授業担当科目

学校臨床演習(大学院), 学校臨床特論(大学院), 生徒指導 (教職専門科目), 教育臨床フィールド演習 (大学院), 心理学概論

学 会 活 動 専門行動療法士(日本行動療法学会認定)

社 会 的 活 動 全国教育実践総合センター不登校研究会事務局長(理事), 教育委員会, 学校における不登校対策等の顧問・スーパーバイザー・講演講師・推進委員, 子ども教育支援財団学校復帰支援事業顧問等, 明治図書出版 Edu ブログオフィシャルライター等。

講 演 の テ ー マ 「不登校ゼロ町の達成とそれへの支援」, 「不登校は克服できる」, 「再登校支援のための個別教育プログラム(IEP)の作り方」, 「不登校問題解決に向けて-町・学校ぐるみでの不登校ゼロの取り組みから-」